

### 三浦小学校

「コミュニティ・スクール」の力で「三浦小ならでは」の教育をつくる(ESD、ふるさと・キャリア教育への挑戦)

校長 布 正人

#### ◆はじめに

三浦小学校では、学校教育目標を「いつも 笑顔で元氣です」とし、めざす児童像を「進んで学ぶ子・心豊かでたくましい子・地域が大好きな子」として、全校44名の児童と13名の教職員で歩みを進めています。

今年度は「コミュニティ・スクール」として認定を受けた4年目、また、「高知県版地域学校協働本部事業」の指定も受けています。

もともと三浦小学校は地域とのつながりの強い学校です。その強みを生かして「コミュニティ・スクール」の力で、「ESD(※1)、ふるさと・キャリア教育」への取組を通して「めざす児童像」を実現するための授業づくりを豊かに展開できる学校を作ります。

それでは、今年度の教育活動の一端を紹介します。

#### ◆学力向上

##### ① 授業改善

学び合える学級を作るため、共感的な人間関係を授業を通して育みます。

学ぶ意欲を感じ、思考を深め、伝え合う場面のある授業づくりを進めています。

##### ② 読むことの充実

いろいろな場面で読むことの充実を図っています。(NIE(※2)への取組、ICT(※3)の効果的な活用、朝読書、百人一首大会・朗読ボランティアなど)



百人一首大会

##### ③ 基礎学力の定着

組織的な加力学習の工夫、学力検査の活用、家庭学習の充実を進めています。

「忘れた頃に繰り返す」を徹底します。4月に行われた標準学力調査の結果では

(まだ正式な結果は届いていないので自校採点)、ほぼ全国平均と同等かそれ以上の結果でしたが、弱い部分もあります。この結果を受け、今年度もご家庭の協力のもとに「家庭学習の徹底」、「読むことの徹底」、「帯タイム・放課後加力の充実」を「話の聞き方・真面目な作業・挨拶・時間を守る(はまあじ)取組」、「安心して学べる学級作り」の上に徹底して取り組んでいます。

#### ◆絆づくり・仲間づくり

##### ① 心の教育の充実

あいさつ運動、がんばった朝会、縦割り班活動(作業を大切にする)、児童会を中心とした活動(集会活動・みんなで遊ぶ日)など、全校の心のつながりや上級生の活躍する場面を意識的につくり、全校の絆づくりや上級生を育てる取り組みを進めています。

##### ② 豊かな体験活動と交流活動の推進による人づくり

地域の人、もの、こと、「産業・文化」の活用により、ESD、ふるさと・キャリア教育を進め、地域を誇りに思い地域が大好きな児童の育成や、「生きる力」を体感

する場としての体験学習として「生華園との交流(稲つくり・夏祭り・餅つき)」、「防災参観日」、「三世代交流」、「11月・みうら学びの月」の取組(家庭のルールづくり、家読の日)など、コミュニティ・スクールの力で、「三浦ならではの」活動を計画し、実践していきます。



生華園と交流(田植え)

#### ◆健康・安全・体力づくり

基本的に徒歩通学、朝運動、外遊びの奨励、基本的な生活習慣の確立、防災教育の充実を図ります。子どもたちは、雨の日も風の日も徒歩通学し、参観日にも保護者の帰りを待つことなく、徒歩で帰ります。2時間目と3時間目の間の休み時間には元気に外で遊び、昼休みにはみんなで遊ぶ日も計画されます。

防災教育に関しては、いろいろな場面を想定し、年間10回以上の避難訓練を行い、生きた防災教育を進めていきます。今年度も、10月に防災参観日として、地域とともに防災食の体験に取り組みます。



遠足での避難訓練

ホームページも随時更新中です。

- (※1) 持続可能な社会づくりの担い手(人材)を育成するための教育として活用すること
- (※2) 学校などで新聞を教材として活用すること
- (※3) 通信技術を活用したコミュニケーション

佐賀中学校

「人間を大事に」〜自他ともに大切にすることができよう〜

校長 宮崎 宏治

◆はじめに

今年度は16名の新入生を迎え、全校生徒51名、4学級(通常学級3、特別支援学級1)、教職員15名で教育活動がスタートしました。

本校では「人間を大事に」を学校教育目標として、人権・同和教育を基本に据え、いじめや差別を許さない、人としての生き方を大事にしながら、日々の授業や部活動、さらに生徒会活動や学校行事に取り組んでいます。

◆本年度の重点的取組

今後、情報化やグローバル化といった社会的変化が予測されている新しい時代に向けて、未知の問題に直面したとき、既習の知識をもとに、仲間と協力して主体的に解決したり、新たな解決策を創造する力が求められます。これからは「知識の量」から「知識の質」が重要となってきます。

昨年度は「志・育成型学

校活性化事業(夢プロ)の指定を受け、生徒の自尊感情・自己肯定感・自己有用感・社会性を育む取組を、特別活動の時間を中心に推進し、生徒主体の授業作りや学校行事に取り組んできました。

今年度は、「中学校組織力向上のための実践研究事業(教科間連携)」の拠点校として、教員同士が学び合い、授業力向上を図る取組を実践しています。この取組によって、一人ひとりの生徒が「よりよく生きる」ための意欲づくりや学力向上をめざして



◆基礎学力の定着と充実

本校では、校内研究テーマを「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」教科間連携を柱とした組織的な授業改善」として学力の向上に取り組んでいます。

今年1月に実施した高知県学力定着状況調査の結果では、現2年生は、県平均

を上回る事ができず、特に国語・社会に課題が見られました。現3年生は、国語・社会・数学で県平均を上回りましたが、理科と英語で県平均をやや下回る結果となりました。

学年や教科によってそれぞれ課題がありますが、基礎学力の定着を図り、学力を向上させるために「教科間連携」の指定事業を活用しながら、主体的・対話的で深い学びができる授業づくりを通して、誰もが「わかる、できる」授業をめざしています。

◆防災教育

2年前から、生徒会活動の一環として「防災委員会」を設置し、地域の屋内避難訓練や保護者・小学校との合同避難訓練など、さまざまな防災に関する取組を生徒が中心となって行っています。昨



年度はその取組が評価され「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しま

した。今年はさらにその取組を充実させ、地域の要配慮者宅への訪問も行いました。防災への意識アンケートを実施するなかで、中学生が一緒になってできることを提案してみたり、家具の固定や過去の災害の体験談などについて話を聞くことができました。防災の取組を通して、生徒たちは地域の人の思いに触れ、頼られていく自分に気付くきっかけともなっています。

◆ふるさと・キャリア教育

故郷を愛し、故郷に誇りを持つ生徒に育ってもらいたいと、今年も夏休み当初に「キャリア講演会」を実施する予定です。コンサートや人権講演会、教職員の趣味や経験してきた話などを通して、「学ぶ意欲、学ぶ動機」に繋がればと考えています。

昨年度は、黒潮町の協力を得て、カツオのたたきづくり習得にも挑戦しました。



練習を重ねるごとに包丁さばきも上達し、6名のカツオマイスターが誕生しました。10月にニュージラードの生徒が訪問したときには、先生役として大役を果たしてくれました。

◆佐中祭

平成13年度からスタートした「佐中祭」も、今年で19回目となり、すっかり地域の行事として定着してきました。今年度のテーマは、「きずなくみんなできずこう笑顔の輪」です。生徒同士や地域との「きずな」を深めることや「新しい笑顔を築く」とともに「すでにある笑顔に気づいていこう」という思いが込められています。今年度も3年生を中心に、ステージ部門のパフォーマンスに取り組みました。また、各店舗では全校生徒が縦割り班で運営をするなど、地域の人も大変喜ばれ、大いに盛り上がった「佐中祭」となりました。

